

在校生のみなさんへ

2019年度『学修時間・教育の成果等に関する調査』の結果について

「東京経済大学 IR 推進委員会」は、教員と学生関係部署の職員から構成され、大学内のさまざまな情報を収集・分析し、その結果を教育・研究、学生支援等に活用する IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動を行っています。

そのひとつとして、2016年度から2019年度までの4年度にわたり、毎年7月に全学部生を対象に『学修時間・教育の成果等に関する調査』を TKU ポータル(学生ポータルサイト)でアンケート実施してきましたが、学生のみなさんには定期試験の繁忙期にもかかわらず、毎回、回答にご協力をいただき大変感謝しております。今後の教学改革や学生支援の参考とさせていただきます。

このたび、2019年度の調査結果がまとまりましたので、過去3回の結果とも比較し、その概要をご報告いたします。

1、調査の概要

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
調査期間	2016.7.11～2016.8.6	2017.7.18～2017.8.13	2018.7.2～2018.7.31	2019.7.1～2019.7.31
回答者数 (全学生中回答率)	1, 263名(19.2%) <男 17.1%、女 24.6%>	871名(12.9%) <男 11.6%、女 16.2%>	890名(13.3%) <男 11.5%、女 17.6%>	701名(10.5%) <男 9.6%、女 12.2%>
学年別回答率	1年(31.9%)、2年(23.4%)、 3年(14.3%)、4年(9.8%)、留年(3.5%)	1年(20.9%)、2年(14.5%)、 3年(12.2%)、4年(5.9%)、留年(1.6%)	1年(27.9%)、2年(10.4%)、 3年(10.4%)、4年(5.4%)、留年(2.6%)	1年(23.2%)、2年(10.3%)、 3年(7.5%)、4年(3.0%)、留年(1.3%)
学部別回答率	経済(18.1%)、経営(23.4%)、 コミュ(16.6%)、現代法(15.0%)	経済(11.9%)、経営(15.4%)、 コミュ(13.2%)、現代法(9.6%)、 CDP(10.0%)	経済(10.7%)、経営(17.6%)、 コミュ(11.7%)、現代法(10.7%)、 CDP(14.0%)	経済(8.9%)、経営(12.8%)、 コミュ(9.1%)、現代法(9.6%)、 CDP(20.9%)
質問項目	①最近1週間における平均的な時間の使い方 (●出席授業科目数、●授業時間以外の授業に関する学習時間、●個人的興味による自主的な学習時間、 ●資格取得受験勉強時間、●アルバイト時間、●サークル活動時間、●社会活動時間、●就活関連時間)、 ②授業に取り組む姿勢、③授業を受講し、その結果、実力が付いたと思う科目群、 ④学修成果・到達度自己評価(ディプロマ・ポリシーと具体的な10の力の修得度)、 ⑤図書館・学習センター・グローバルラウンジ等学習支援施設の利用状況、⑥卒業後の活躍の場について			①から⑤までは昨年度までと同様、 今年度は、新たなトピックとして、 ⑥「1年次ゼミの学修成果について」 を取り上げ、変更して実施
回答者の傾向	4回とも、「1年生」「女性」「経営学部」の回答率が高い結果となりました。 2017年度以降、同時期に各授業科目の「授業アンケート」が実施され、年々その対象科目数が増加しているため、学生の回答負担が増したためか、 回答率が下降傾向にあります。また、毎年ほぼ同内容で実施しているため、上級学年になるほど、回答率が減少するという課題が見えてきました。			

2、調査結果のポイント

①最近1週間の平均的な時間の使い方 (⇒グラフ①②③④⑤⑥参照)

1年生から3年生は、履修登録上、履修制限単位数の上限に近いと思われますが、実際には授業に登録どおり出席している学生は「70%から80%程度」で、逆に10%程度の学生は1年生から厳しい状況にあり、他の退学者調査とも似た結果と思われます。全体としては、「授業の出席」を最優先し、それ以外の時間は、「アルバイト」のウエイトがかなり高く、「課外活動」や「資格の勉強」等のやりくりをしているようです。「授業以外での授業に関する学習時間」や「個人的興味による自主的な学習時間」をさらに増やす工夫が必要となります。

②授業に取り組む姿勢 (⇒グラフ⑦⑧⑨参照)

どちらかと言えば、予習よりも、復習中心で、授業後に疑問点を調べ、さらに積極的な学生では、「新たに発生した興味」について自主的に学習しています。「授業の出席」を第一に、「課題やレポートはきちんと提出」するが、教員に積極的に質問することや、教科書以外の参考図書を読むことまでは十分にいたっていません。現代法学部が全体的に授業の取り組みが積極的です。ゼミ等への積極的参加は、年次の進行に従い増加し、履修率の高いコミュニケーション学部で顕著にみられます。

③本学の授業で受講し、その結果、実力が付いたと思う科目群 (⇒グラフ⑩⑪⑫参照)

1年生の回答が多いので1年次配当科目(英語・コンピュータ・1年次ゼミ等)の評価が高くなるのは当然ですが、学年別や学部別にみても、「総合教育科目」は講義も演習も上級学年ほど高くなり、「総合教育科目」の演習では特にコミュニケーション学部生と経済学部生が力をつけているようです。「専門教育科目」は上級年次になるほど高くなりますが、特に現代法学部では「専門の入門・基礎的科目」が、コミュニケーション学部では「専門の演習科目」が目立ちます。「数的思考科目」は経済学部が、「英語以外の語学科目」ではコミュニケーション学部が高くなりました。全体の課題としては、1年生の時に自信をつけた「英語」と「コンピュータ」を2年次以降も継続して学習すること、「1年次演習科目」の成果を2年次以降の本格的な演習教育にいかにつなげていくか、弱点である「数的思考力」の修得のようです。

④学修成果・到達度自己評価 (⇒グラフ⑬⑭⑮⑯参照)

学修成果による具体的な10項目の能力については、学年進行とともに到達意識が高くなります。特に「実践的コミュニケーション力」「時間管理能力」「社会市民力」に自信を持ち、逆に「情報活用力」「科学的・数量的思考力」「チームワーク・リーダーシップ」「グローバル化対応力」を苦手とする傾向が引き続き出ています。ディプロマ・ポリシーの到達度は4年生でぐんと高くなりました。本学学生の長所である「おとなしくてまじめ」「みんなで仲良く」から一歩踏み出す「進一層」が必要なようです。

⑤授業以外での「各学習施設」等の利用状況 (⇒グラフ⑰⑱参照)

図書館の利用の実態は「図書の閲覧・貸出」から「情報検索」へと移行しているようです。データベースの利用は図書の館外貸出と同じぐらいの割合になっています。「学習センター」や「グローバルラウンジ」だけでなく、対象学生数が限定されるにもかかわらず「教職ラウンジ」や「地域連携センター」が新たな学習拠点として機能し始めている様子がわかりました。「CSC 研修室」での資格取得学習も多いようです。新規利用者拡大には各施設の独自イベント開催が有効だと思われます。

⑥1年次ゼミの学修成果について (⇒グラフ⑲⑳参照)

今年度からの新たな調査項目ですが、他の本学学生追跡調査から、「1年次での学修結果が4年間の大学生活に大きな影響を与えているのではないか」という仮説が出されているので、初年次教育の中心である「1年次ゼミ」での学修経験(大学での学習方法修得や学習支援施設の利用促進、人権の理解や就業意識の醸成等)の成果が出ているかを聞いてみました。その結果、「情報収集」「レポート作成方法」の修得や図書館活用について大きな成果が出ているようです。

特に学習方法の修得では現代法学部が、演習形式での発表や討論・仲間との共同作業についてはコミュニケーション学部が成果を出しているようです。ただし、2年次以降の演習科目の学修への誘導になっているかという点必ずしもそうではないので、本格的なゼミ学修との連携が今後の課題になりそうです。

⑦「学習時間」「学習行動等」と「修得能力到達度」との関係について (⇒グラフ㉑参照)

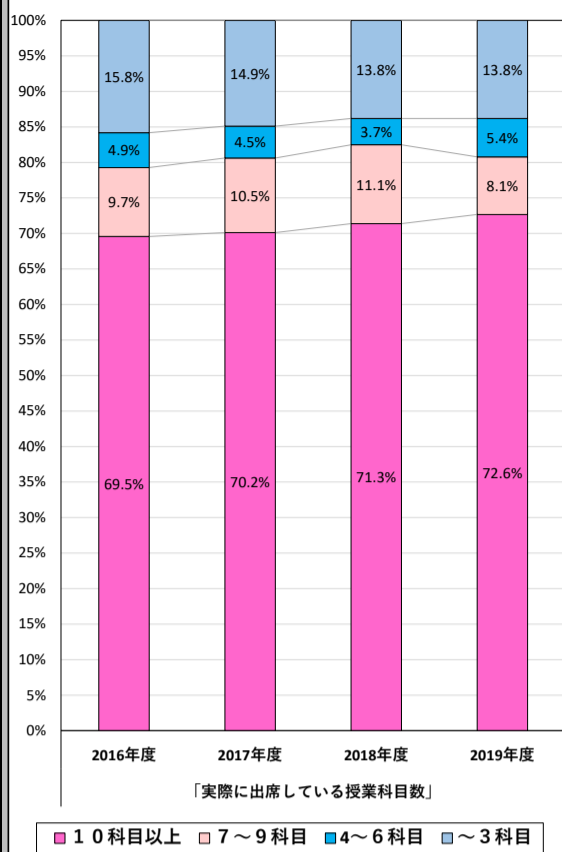
「学習時間が長く、授業関連以外の自主的な学習まで行っている学生」「復習や発展学習をおこなっている学生」の修得能力到達度は高くなりました。授業科目との関係では、演習科目での成果はいうまでもありませんが、総合教育・専門教育問わず、講義科目での成果も能力の修得に大いに関係があるようです。また、「図書館」は多くの学生が利用しているので、修得能力との関係性は薄まりますが、少数派とは言え、「学習センター」や「グローバルラウンジ」をよく利用する学生の修得能力到達度は群を抜いて高くなりました。教室だけでなく、正課授業外でも多様な学習支援施設を積極的に活用した学習行動を促進することが重要です。

以上

1. 最近1週間における平均的な時間の使い方

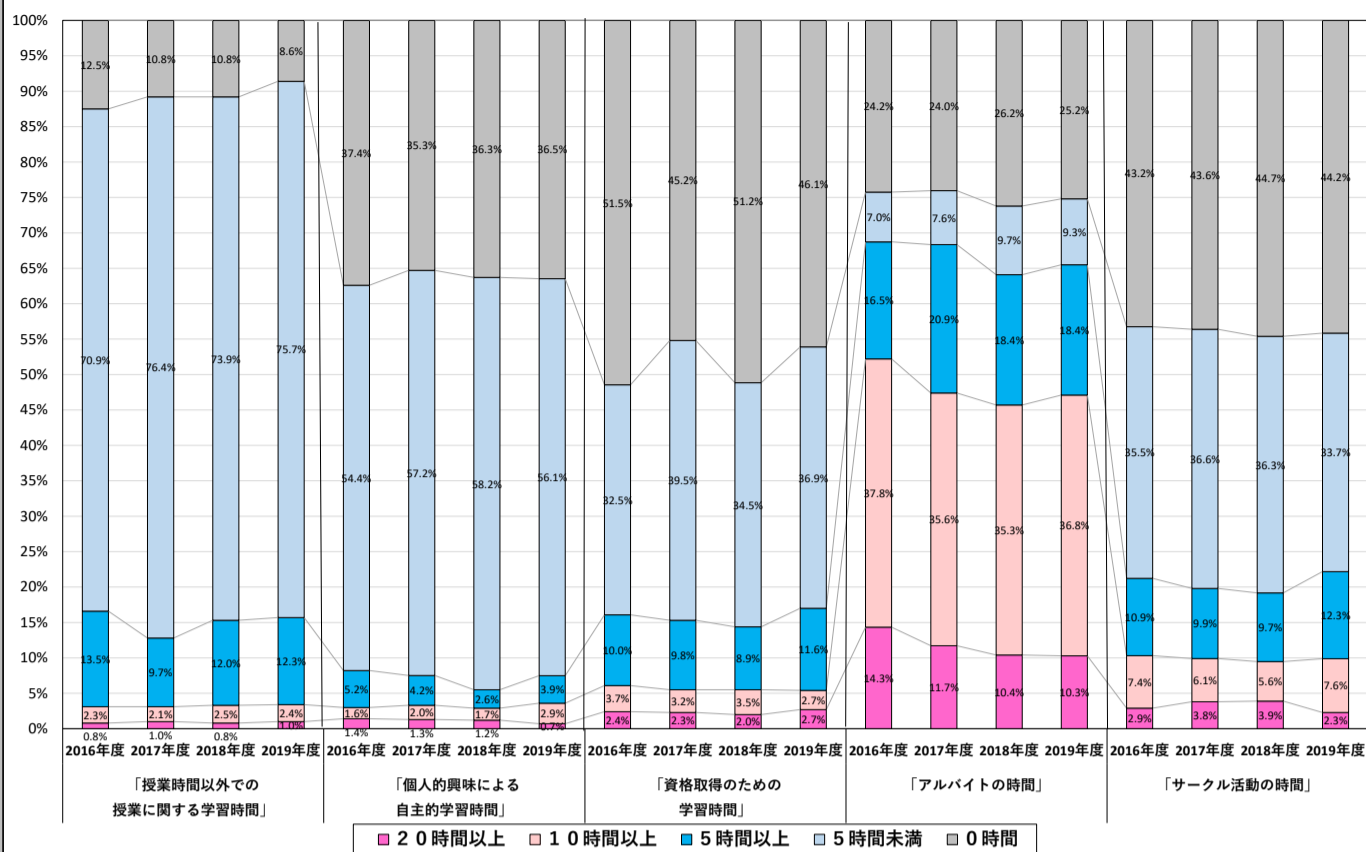
最近1週間における「出席授業科目数」
(全学年)

グラフ①



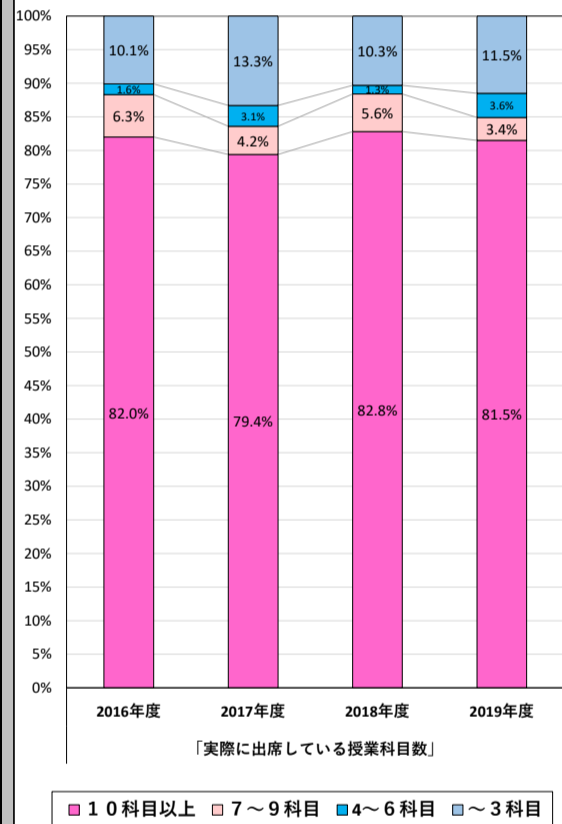
最近1週間における平均的な時間の使い方
(全学年)

グラフ②



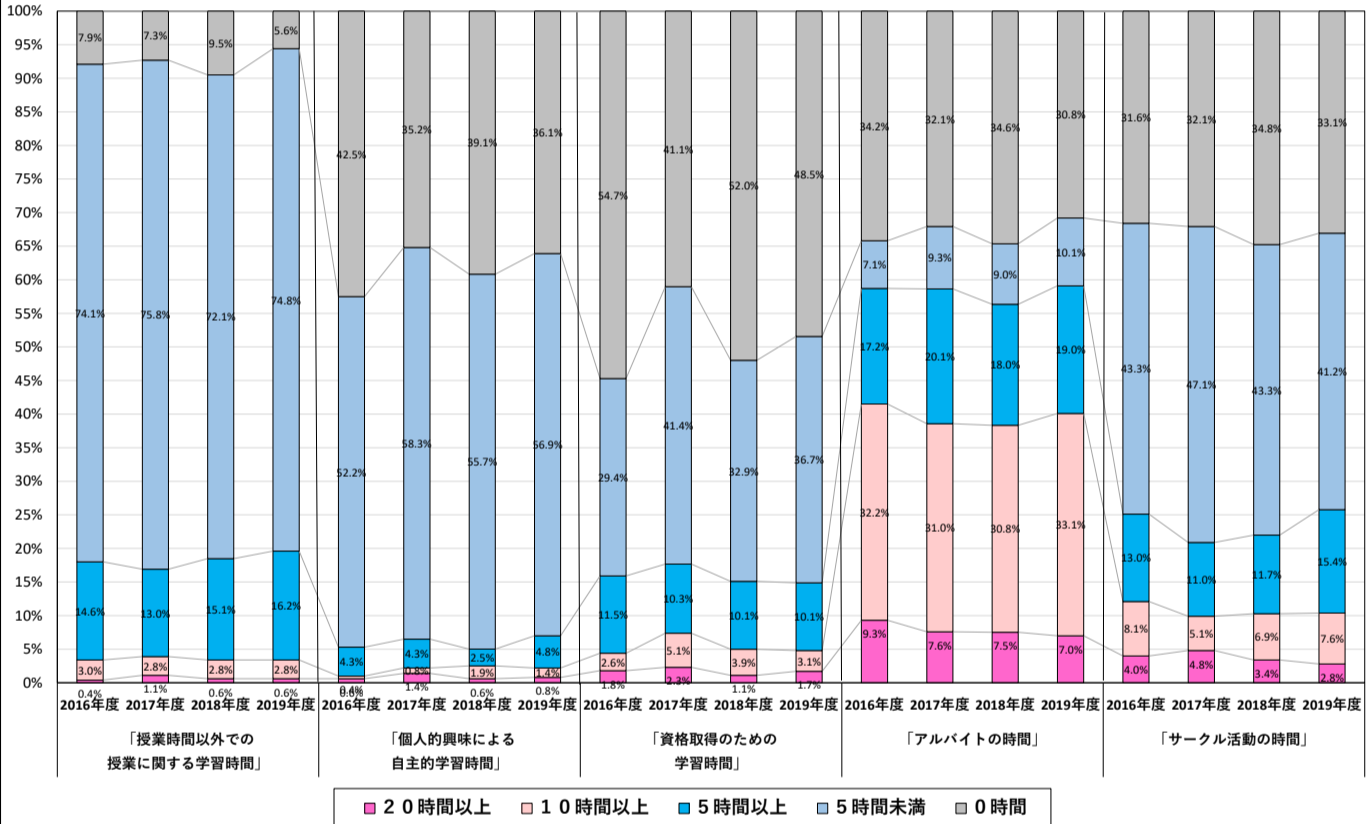
最近1週間における「出席授業科目数」
(1年生)

グラフ③



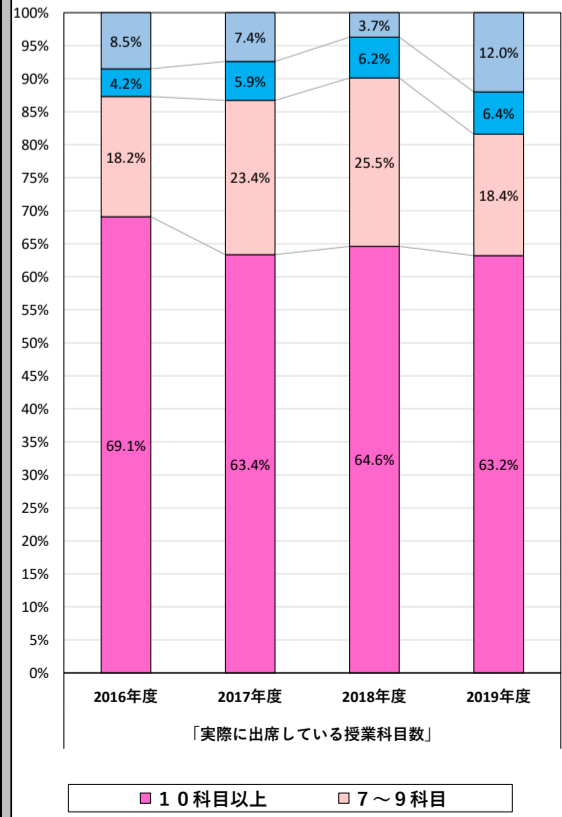
最近1週間における平均的な時間の使い方
(1年生)

グラフ④



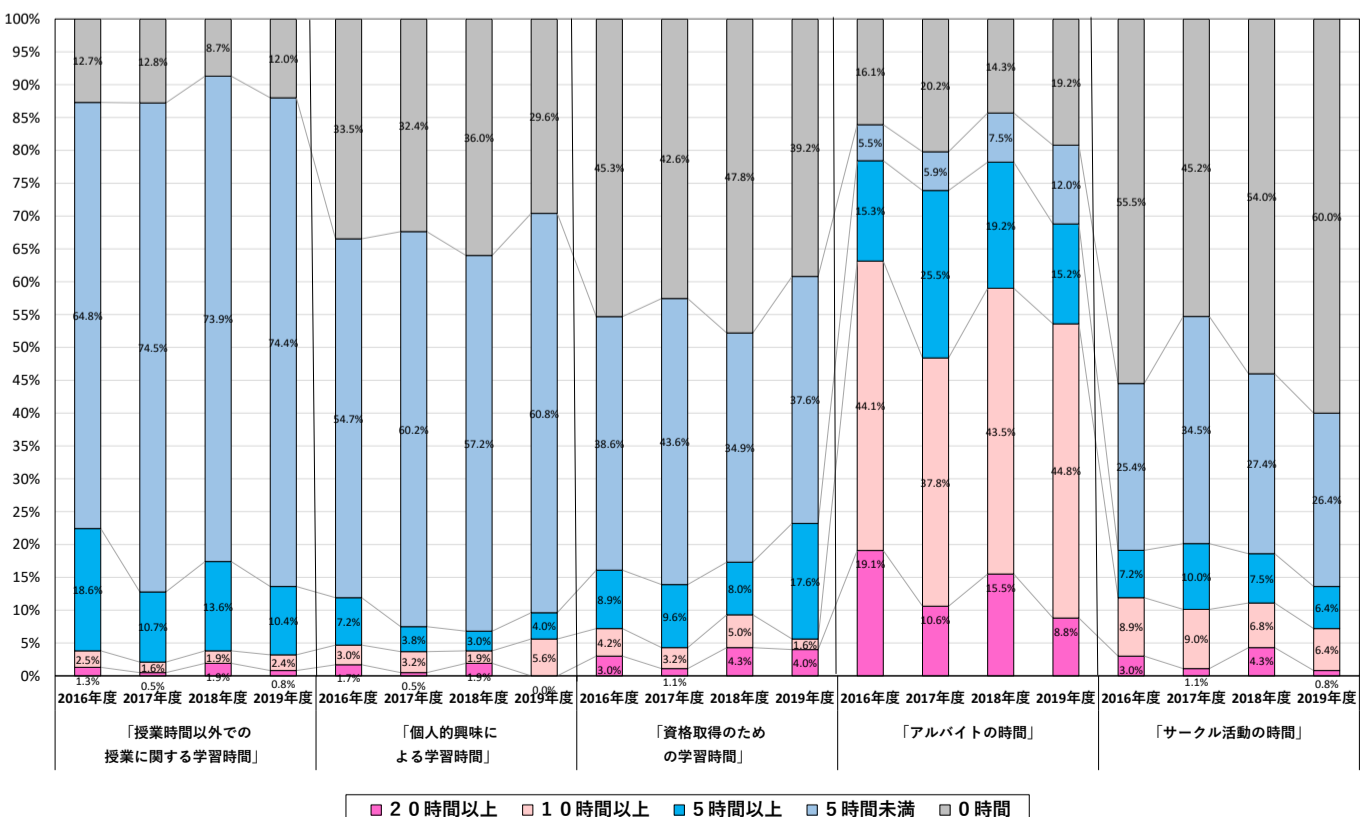
最近1週間における「出席授業科目数」
(3年生)

グラフ⑤



最近1週間における平均的な時間の使い方
(3年生)

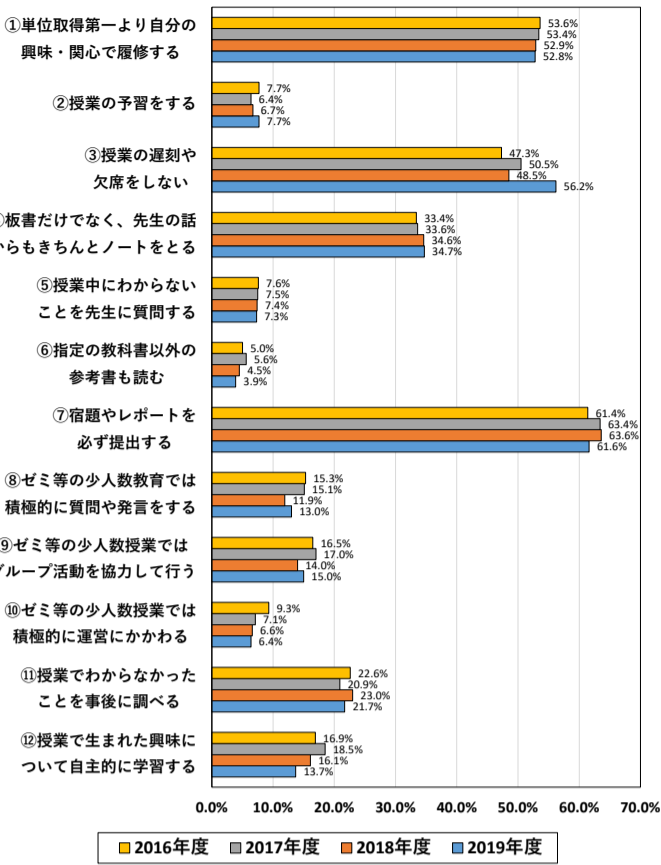
グラフ⑥



2. 授業に取り組む姿勢

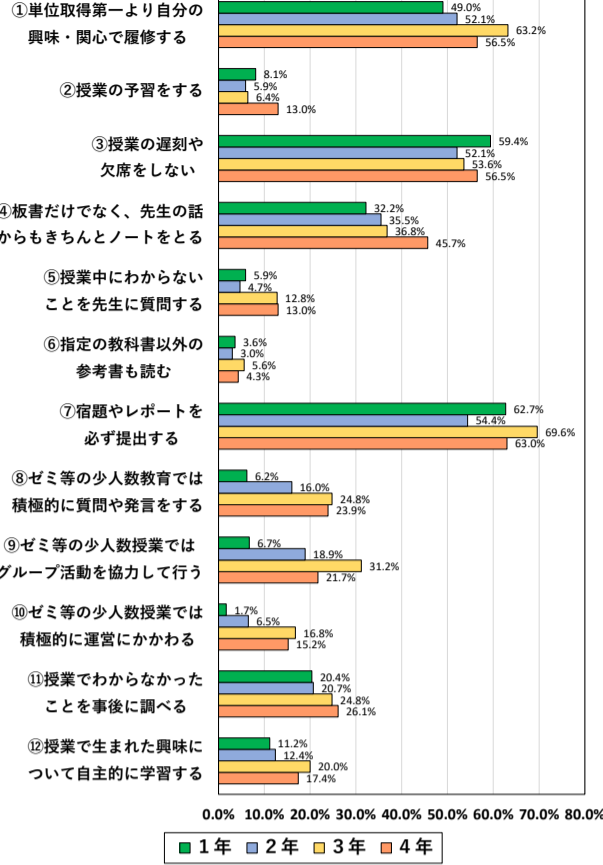
授業に取り組む姿勢（全学年）

グラフ⑦



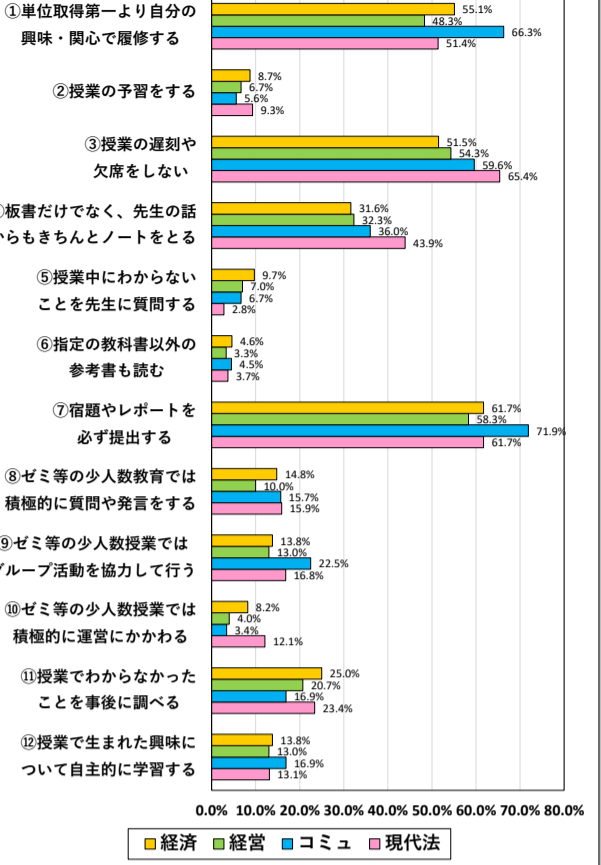
2019年度授業に取り組む姿勢（学年別）

グラフ⑧



2019年度授業に取り組む姿勢（学部別）

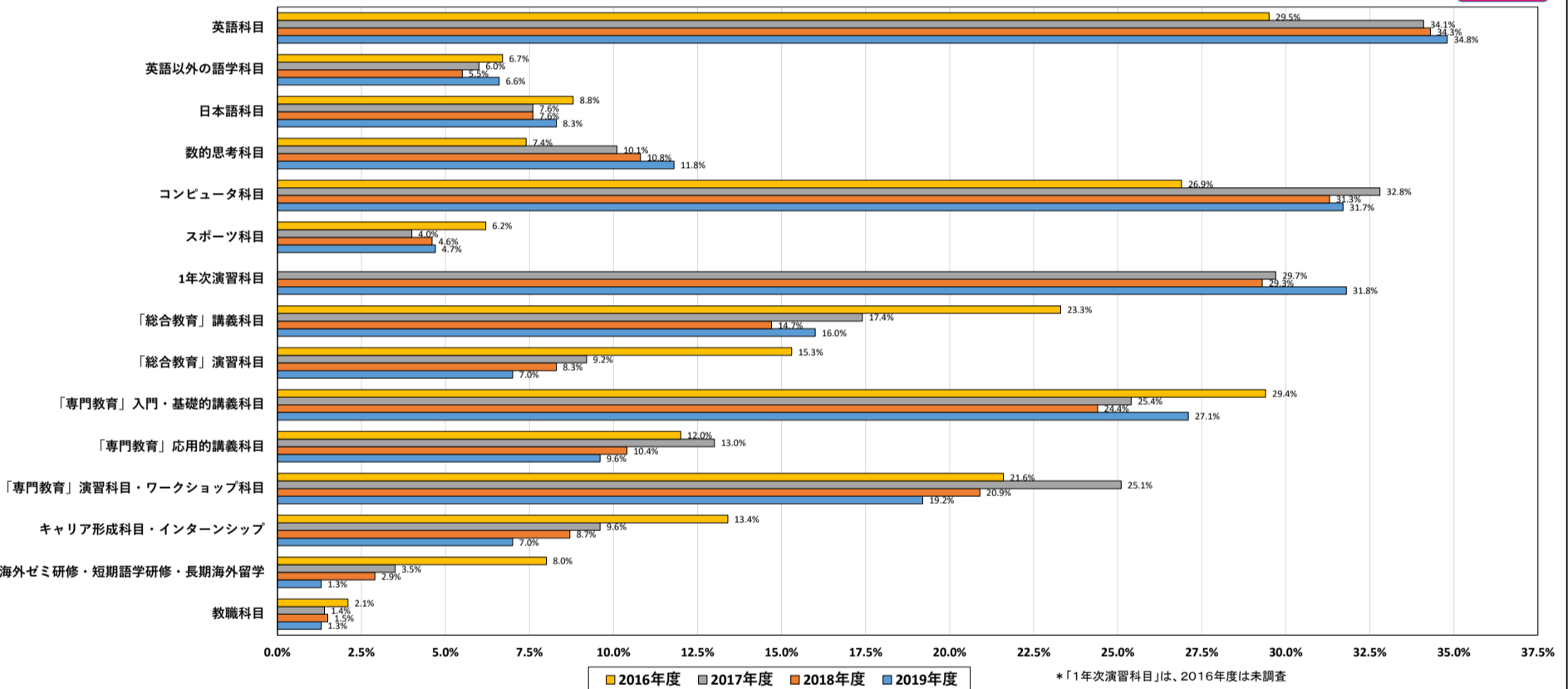
グラフ⑨



3. 本学の授業で受講し、その結果、実力が上がったと思う科目群

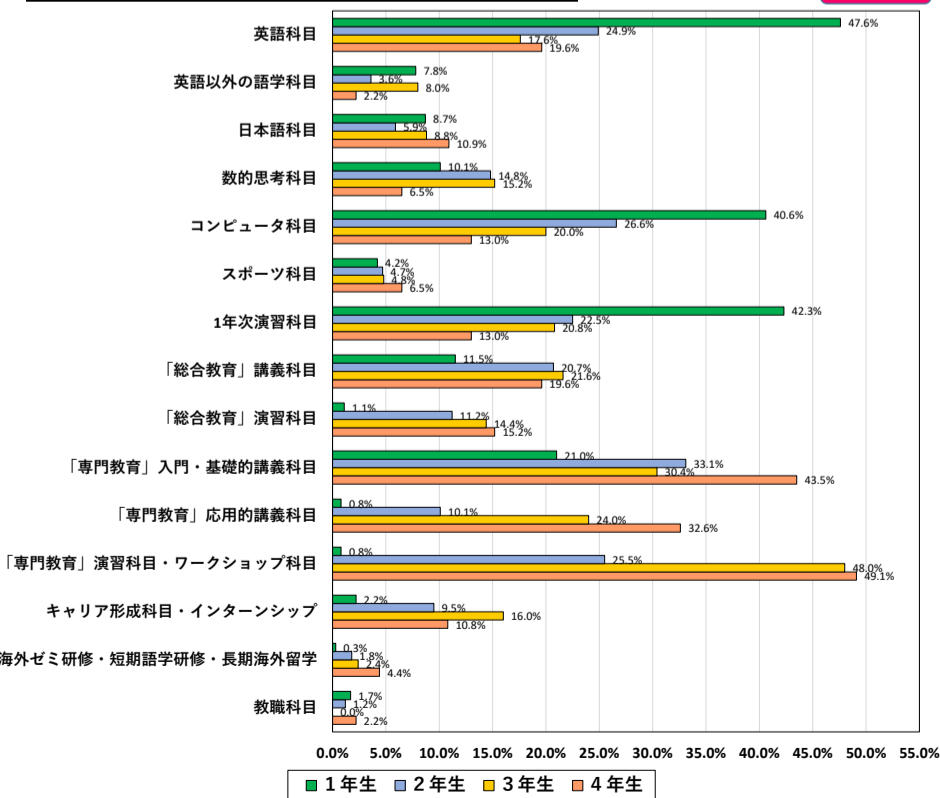
本学の授業で受講し、その結果、「実力が上がったと思う科目群」（全学年）

グラフ⑩



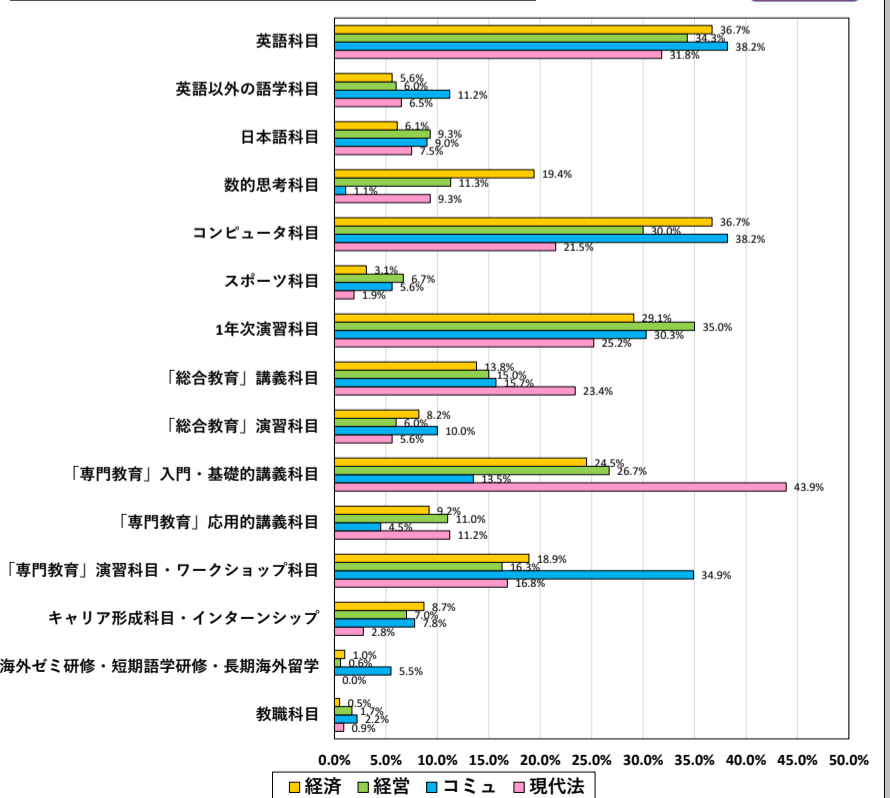
2019年度「実力が上がったと思う科目群」（学年別）

グラフ⑪



2019年度「実力が上がったと思う科目群」（学部別）

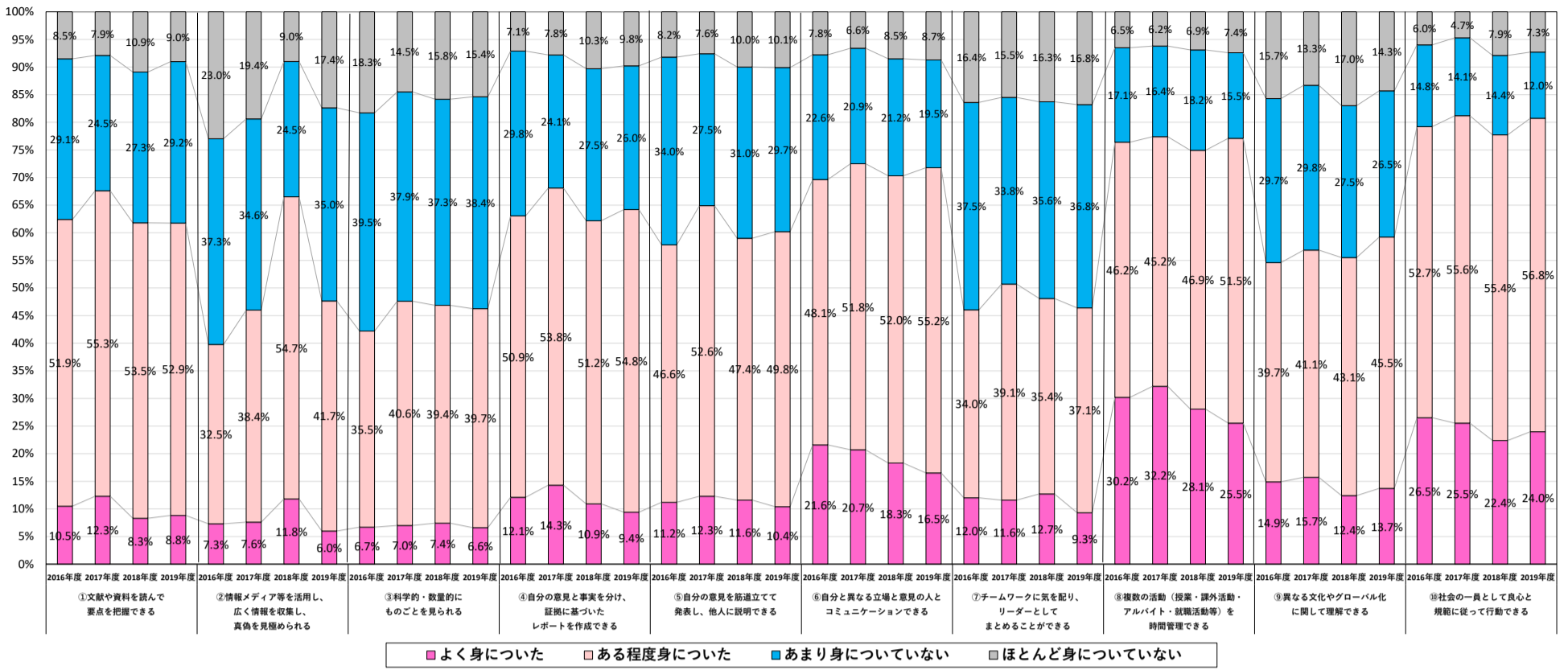
グラフ⑫



4. 学修成果・到達度自己評価

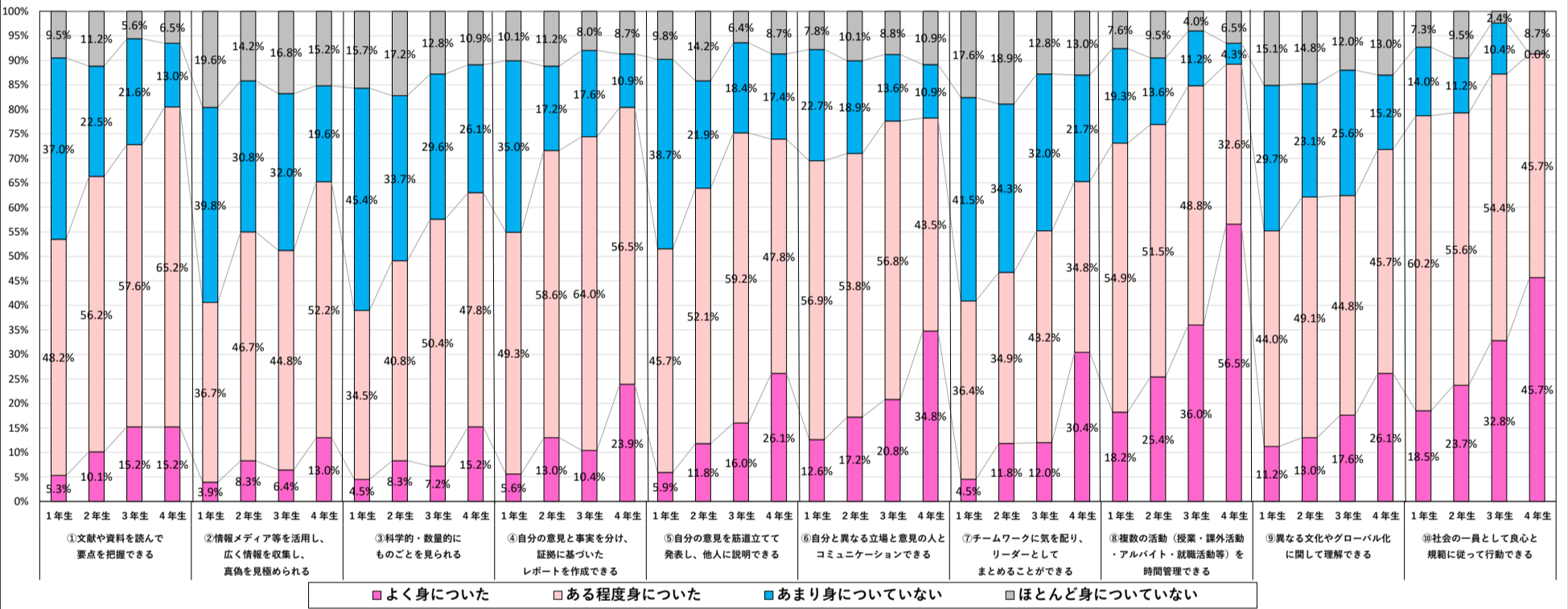
学修成果による10の修得能力の到達度（全学生）の推移

グラフ⑬



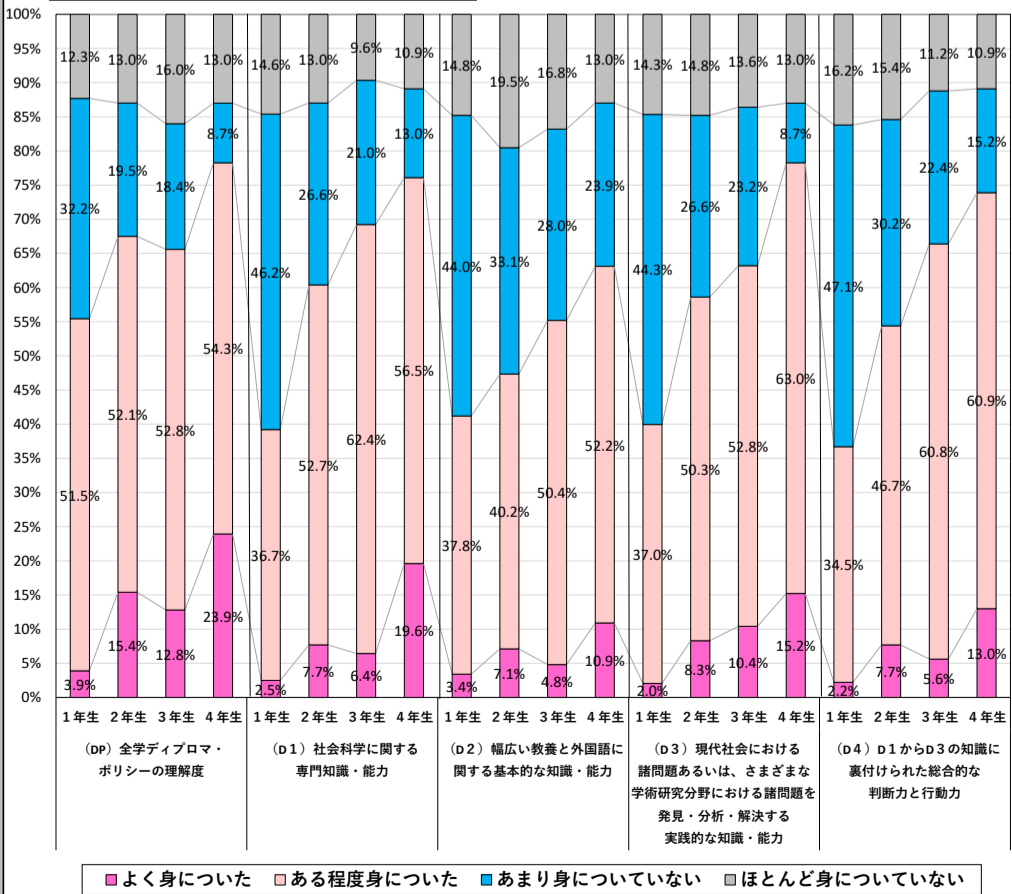
2019年度「学修成果による10の修得能力の到達度」(学年別)

グラフ⑭



2019年度「全学のディプロマ・ポリシー」の到達度(学年別)

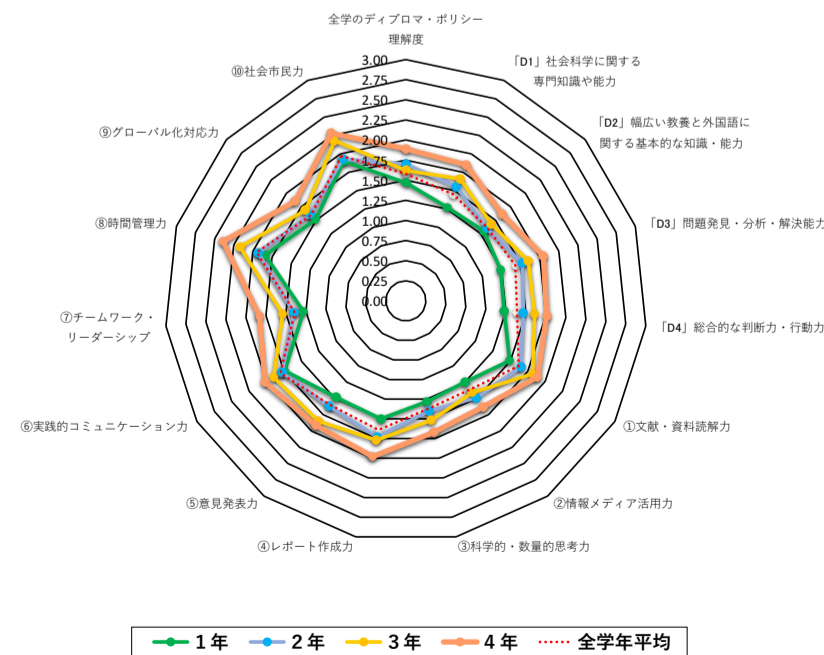
グラフ⑮



2019年度「ディプロマ・ポリシー」と「10の修得能力」の到達度バランス(学年別)

グラフ⑯

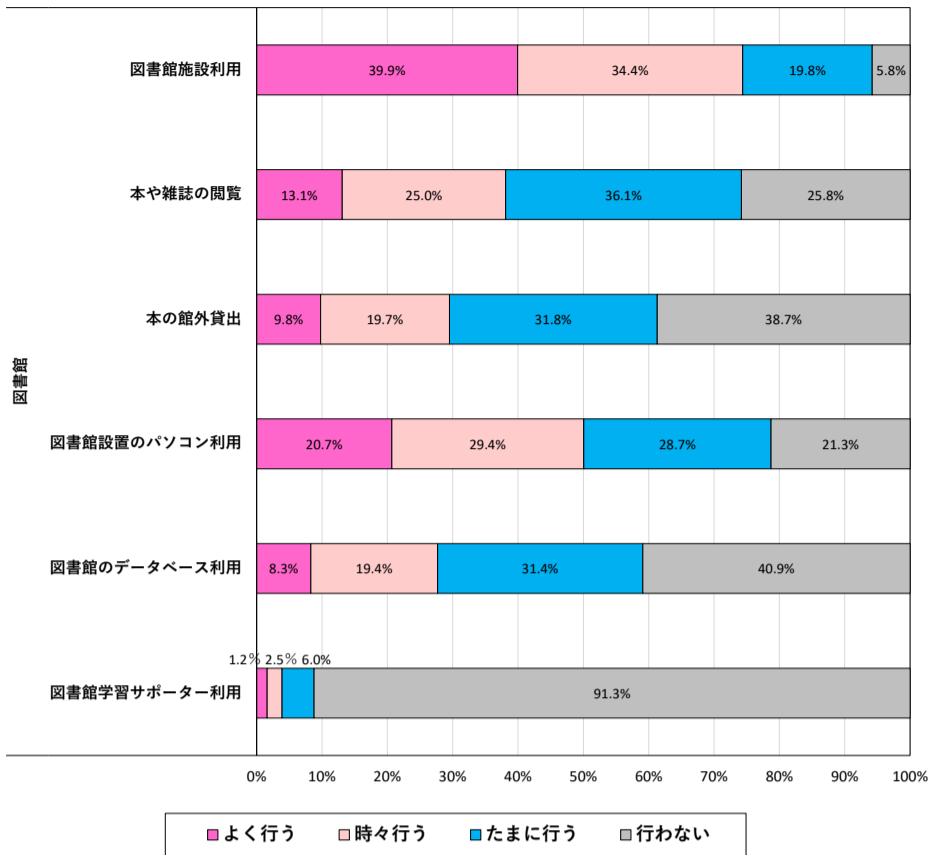
各学生回答の「よく身についた=3点」「ある程度身についた=2点」「あまり身につけていない=1点」「ほとんど身につけていない=0点」と点数化し、学年ごとの平均値を表示した。



5. 授業以外での「各学習支援施設」等の利用状況

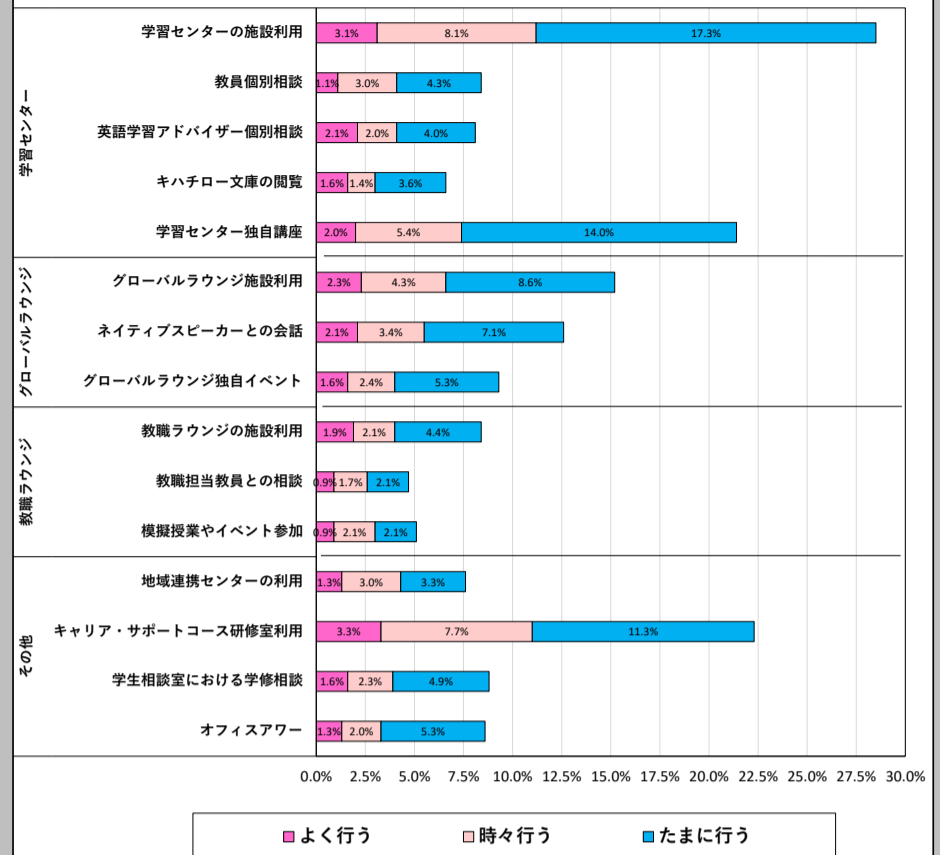
2019年度「図書館」の利用状況(全学年)

グラフ⑩



2019年度「その他の学習支援施設等」利用状況(全学年)

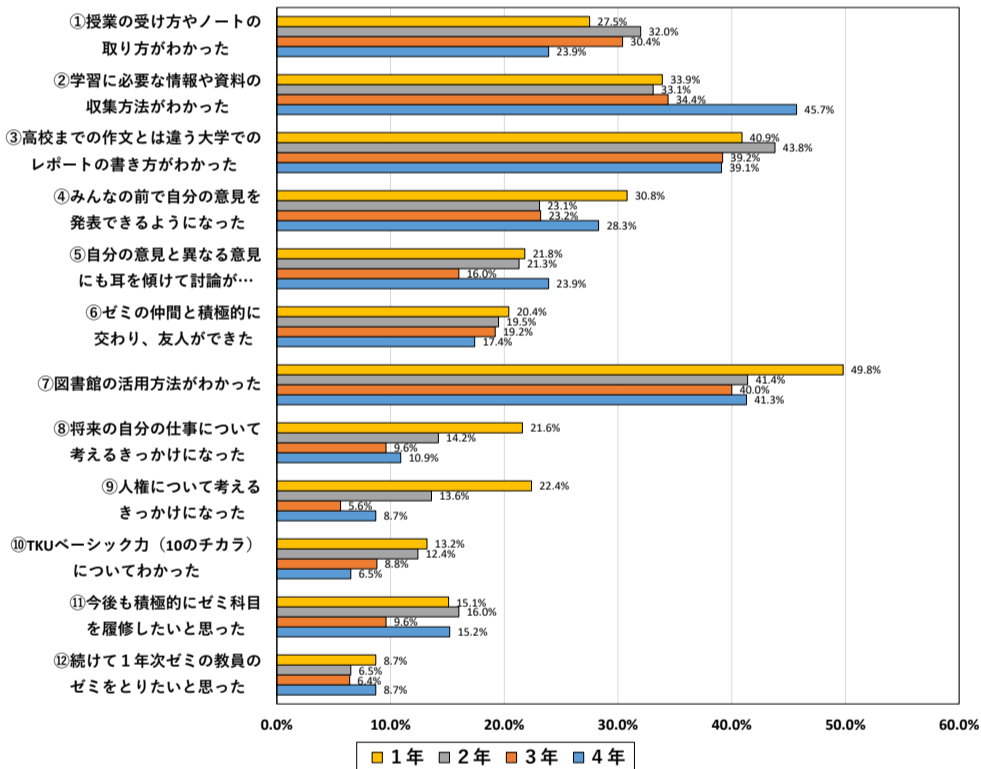
グラフ⑪



6. 1年次ゼミの学修成果について(2019年度初調査)

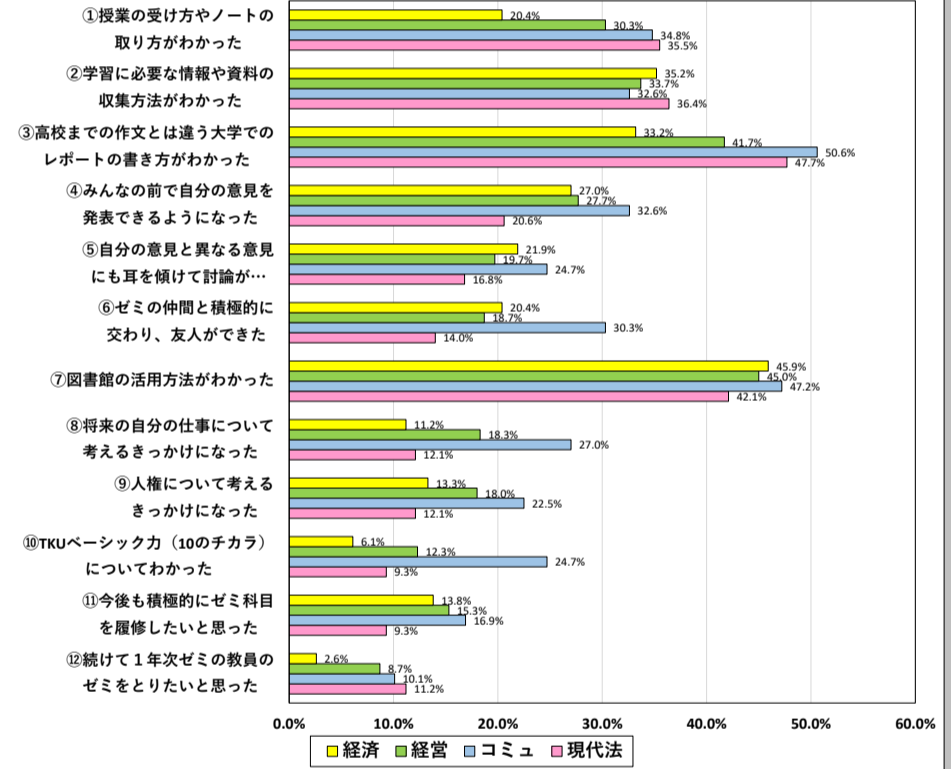
2019年度1年次ゼミの学修成果(学年別)

グラフ⑫



2019年度1年次ゼミの学修成果(学部別)

グラフ⑬



7. 「学習時間」「学習行動等」と「修得能力到達度」との関係について

2019年度「学習時間」「学習行動等」と「全学のディプロマポリシー修得スコア」

グラフ⑭

